いいじまま

議会だより

第74号　平成28年7月15日
発行：長野県飯島町議会

P3
あれどうなった
「東京飯島会」復活を
ひとこと広場
誌面デザイン変更へのご意見に

P4〜5
6月定例会
多額の予備費に大議論
27年度最終補正は2億円弱を予備費に計上、議会の意見が分かれました。

P6〜7
総務産業委員会
町60周年事業で討論白熱
国直轄の河川現場視察も。

P8〜9
社会文教委員会
診療所の設置などを審査。

P9
農業委員会との合同研修
大きな課題が浮き彫りに
来年度からの新たな農業委員会制度、町のこれまでの取り組みが生きるのか。

P11
林務委員会との合同研修
森林環境整備と不明山主
利用が低迷する個人林を団地化して施行し、森林環境をまもる事業が進められています。一方で所在不明の山主も。

P11
議会改革
紙頼みからの卒業目指す
タブレットが配布され、全議員にスケジュール・書類が電子配信。さて…

P12
第3回臨時会
新町長肝いり事業などの補正予算。

P24
町民の声を議会へ
苦悩、大晦日新春花火
最初は「非常識」との批判も受けながら、故郷の思い出づくりを目指し、30回目を迎えようとするまでの物語。
七久保煙友会

町政を問う

ここが聞きたい

11議員が質問

久保島　巖　飯島町営業部
組織は適切か …… P13

本多　昇　ICT利活用
町を先進地に …… P14

橋場 みどり　防災
取り組みに女性視点を … P15

浜田　稔　地元材の住宅
実現の見込みは …… P16

滝本登喜子　グループ育成と支援
今年度での取り組みは … P17

坂本　紀子　食の安全
環境共生栽培の取り組みは … P18

折山　誠　土地開発公社
解散すべきでは …… P19

竹沢　秀幸　慈福院枝垂桜
天然記念物に …… P20

堀内　克美　飯島町営業部
行政内部で …… P21

三浦寿美子　産廃投棄
対応が遅くないか …… P22

中村　明美　食品ロス
削減を …… P23

「一般質問」とは
行財政にわたる議員主導による政策の議論です。（通告順）

表紙の写真／「いいじま大縁会」日曽利にて
（バックの写真は与田切川の清流）

追跡 あれどうなった

一般質問・審査での意見・請願陳情
その後のゆくえ

平成27年3月議会　一般質問

問 東京飯島会復活を。

答 飯島会の再誕生を心から願う。

その後

15年ぶり　再結成
8月21日東京麹町で開催決定。

東京飯島会とは

飯島町出身で東京にて活躍されている皆さんの拠り所として、昭和30年代に結成。最盛期100人を超える会員で活動。

その後、会員の高齢化に伴い15年ほど前より休会状態。そこで復活に取り組む。

東京在住の下平征司（しもだいら せいじ）弁護士が尽力。世話人会を結成し会員を再募集し、スクワール麹町で8月21日再結成総会を開催することとなった。

これを機会に東京でふるさと「飯島町」を応援願うことを期待する。

ひとこと広場

誌面デザイン変更にご意見を頂きました。

「いいじままち議会だより」は、昨年10月号から誌面を横書きに変更しました。

この変更は、大手デザイン会社の研修を受け、次のようなメリットがあることから踏み切ったものです。

1．予算決算など数字が多く、横書きの方が読みやすい
2．従来の縦６段は窮屈で見出しや写真の配置も不自由。

このため、従来と見開きが逆になり、同じファイルに綴ると収まりが悪いとご意見をいただきました。ご不便をお詫びすると共に、大切に保管頂いていることに心よりお礼申し上げます。

また、横書きの誌面構成に対しましては、「読みづらい」というご意見や「読みやすくなった」というご意見もお寄せいただいております。

毎号お読みくださいまして、編集委員一同、重ねて感謝申し上げます。

皆様からのご意見をもとに、さらに読みやすい誌面への努力を続ける所存ですので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

今後もおりにふれて、ご意見をお寄せください。

6月
定例会

27年度最終専決補正
予備費に1億8815万円　創意工夫があるのか

平成28年6月定例会は、9日から17日まで9日間の会期で開催。町提案の補正予算10件・条例3件を審議し、即日承認可決しました。

請願陳情５件はそれぞれ所管の委員会に審査を付託した後、本会議で採択し、議員発議による意見書２件を可決しました。

一般質問は、11人が町政をただしました。

専決処分の承認

年間事業費の確定に伴う一般会計補正予算は、賛成９反対２で承認。町条例３件と特別会計など４会計の補正予算を全員一致で承認。

◇町税条例の一部改正
◇町国保税条例の一部改正
◇町固定資産委員会条例の一部改正

上記３件は地方税法等の改正に伴うもの。

◇平成27年度一般会計

7713万円増額し、総額50億9341万円。予備費に1億8815万円。

問　例年この時期に大きな繰越額となっている。要因は。

答　社会資本整備事業の内示額が減額されたため、事業を精査し取り下げたものもある。伸びが見込まれる税収もある。各事業を執行する中で予算の節約もしている。以上の結果だ。

問　繰越額全額を予備費計上されており、創意工夫が見られない。

答　繰越状況や予算の執行状況を見ながら、９月補正で議会の審議をいただき、決定することが適切ではと考えている。

問　株式等譲渡所得割交付金が70万円に対し392万円の増、自動車取得税が500万円に対して987万円の増になっているが収入増の要因は何か。また当初の見積もりは適正か。

答　決算統計策定中であり、９月議会で報告・説明する。当初予算は、過大に見積もることは難しいため、国の動向を踏まえ編成している。

問　臨時福祉給付金の給付率は86.8%だが、90%以上にするように努力をしたか。

答　対象者159人に通知を発送。その後、時期を見て再度通知。給付時期には、あらためて電話し、民生委員も呼びかをしている。努力をしているが、例年このような率だ。

討　論

反対　創意工夫のない単純な補正予算だ。修正が必要だ。

賛成　ひとまず繰り越して、町民の意見も聞き、議会に諮るということなので賛成。

賛成　目的を定めず、予備費で繰り越す補正額が例年に比べて多額であり違和感があるが、今後改善されることを期待して賛成。

平成27年度 特別会計

◇国民健康保険　1088万円減額
◇介護保険　2290万円減額
◇公共下水道事業 1349万円減額
◇農業集落排水事業　546万円減額

条例改正

町条例１件を全員一致で可決。

◇町消防団員公務災害補償条例の一部改正

関係政令の改正に伴うもの。

請願・陳情の本会議審査結果

内　容	提出者	付託	結果（賛否討論は付託委員会に類似）
TPP協定を批准しないこと	上伊那農民組合	総務	**不採択**　賛成３－反対８
TPP情報開示･農業政策確立	JA上伊那	総務	**採　択**　賛成10－反対1　意見書提出　国へ
35人以下学級推進を	町学校職員組合	社文	**採　択**　賛成11－反対0　意見書提出　国へ
義務教育費国庫負担堅持を	町学校職員組合	社文	**採　択**　賛成11－反対0　意見書提出　国へ
消費税10%中止を	上伊那民商	社文	**不採択**　賛成３－反対８

町に医者がやってくる

待ちわびた診療所設置

1億969万円の増額補正　総額48億9830万円に

主な補正財源

◇地域福祉基金繰入金　4800万円
◇宝くじ助成金　700万円
◇緊急防災・減災事業債　3940万円

主な使い道

◇石楠花苑防災機能強化改修　3955万円
◇石楠花苑診療所設置　4800万円
◇コミュニティ助成事業　500万円
◇町発足60周年記念大博覧会　435万円
◇まちなか活性化・地域おこし協力隊　397万円
◇道の駅田切の里・地域おこし協力隊　399万円

質　疑

問　投票用紙読取分類機は安全性・正確性を確認しているか。
答　実際に２回使いテストしており、確実に処理できる。

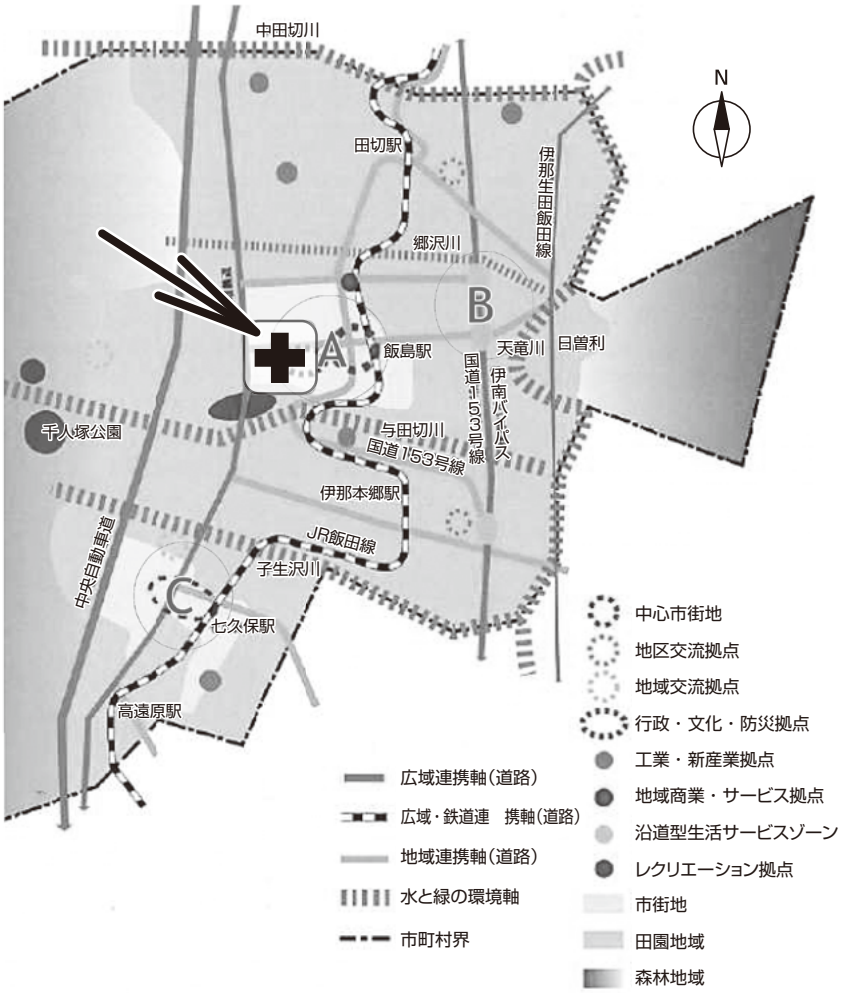
問　地域福祉基金繰入金が２億円あるが、4800万円を取り崩した前か後か。
答　取り崩す前だ。

問　協力隊員を町が便利に使っていないか。この３年間で町に住んでもらえる手立てがあるのか。
答　将来を見据えた中で面接し確認している。自立を踏まえ採用。町も定住をサポートしていく。

問　「田切の里」などの協力隊員派遣は３年間のみ。その確認が出来ているか。
答　確認済みだ。その後は会社で継続して雇用することなどを考えている。

問　60周年記念事業は、実施計画で当初から1000万円もられている。本来当初予算で行われるべき。今後財政運営、議会に対する説明を含め、事業計画・当初予算をしっかり計上して行ってほしい。町長の所見を問う。
答　今後は皆さんに諮って行う。

開業適地の候補エリア



「開業医向け飯島町医療圏分析資料」より

開業 第1号

総務産業委員会

60周年記念事業で白熱討論

補正予算審査

平成28年度一般会計補正予算(第2号)の分割付託分を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。

質疑

問　大博覧会の飯島絵巻とは風神・雷神・水神の話の内容か。
答　まだ決まっていないが、今のところほかの案は出ていない。詳細は今後の実行委員会で決定する。

問　その衣装代として130万円盛られているが、太鼓や獅子舞にすれば衣装は必要ないと思うが。
答　出し物によっては不要になる。その分の費用は削減したい。

問　10月の大博覧会には大道芸人を呼ばないと考えてよいか。
答　盛り込まれていない。

問　なるべく自前で取組むとしているが、業者委託の内容は。
答　サーカステント・音響システム・パンフレットやポスターは業者に委託やリースとなる。

問　60周年記念事業実行委員会に議員も参加できないか。
答　60周年実行委員会と大博覧会実行委員会が重複する。
　大博覧会実行委員会には、いいちゃん産業まつり・いいちゃん文化祭の実行委員会も参加してもらう考えでいる。議員代表については検討課題とする。

問　宝くじ交付金を使った防災関連予算があるが、全自治会での防災グッズの充足率はどうか。地域性を考慮して備える必要があるが。
答　自主性に任せているので、温度差や格差が生じている。充足率は50％に届いていないと思う。
　今後、推奨備品などのリストを作成し、適切なものの普及に努めたい。ただ、高額なマンホールトイレの要望は精査せざるを得ない。

賛成討論

・60周年記念事業は1000万円ありきでなく、なるべく節約し業者委託より自前での運営を増やすことを求める。
・町民の税金を使う以上、何に使うかではなく、意義ある結果をいかにもたらすかである。
　こうしたイベントは、多くの住民が参加できる方法や、心を一つにできることが重要視されるべきだ。その点に充分留意されることを期待する。

自前の大博覧会を

順調に進む直轄工事 6/15

国直轄の27年度からの継続事業状況の現場を視察しました。

◇中田切地区渓流保全工事

国道153号中田切橋橋脚部の洗掘が見られました。

そのため、床固め工で河床を安定させます。また、護岸工事は左岸と同じ工法で右岸も実施します。

工事金額は2億6500万円です。

中田切床固工事予定場所

◇与田切第1号床固工事他

工事は、町道本郷飯島線与田切橋上流の2箇所です。

護岸工事は完成済の右岸と同じ工法で左岸を行います。大規模な床固め工で河床を安定させるものです。

工事金額は2億8800万円です。3月に着工し11月30日完成予定です。

与田切床固工事現場

陳情審査

不採択

ＴＰＰ協定を国会で批准しないこと

提出者　上伊那農民組合
竹上 一彦（たけがみ かずひこ） 氏

賛成 2　　反対 3

◆ **内容**

国会決議に違反するＴＰＰ承認案を撤回し、関連法案を廃案にすること。

反対

・大筋合意以来様々な対策を打ち出している。今後も万全な備えをすると約束をしており承認案の撤回や廃案にする必要はない。

賛成

・大筋合意は国会決議に違反していることから、批准出来ないことは明らかである。

採択

ＴＰＰに関する情報開示・農業政策の確立を

提出者　ＪＡ上伊那
御子柴 茂樹（みこしば しげき） 氏

賛成 3　　反対 1

◆ **内容**

国は十分な情報開示と明確な説明を。中長期的な農業農村政策を確立すること。国会決議を守り、国民の不安や懸念が払拭されない限り、批准を行わないこと。

賛成

・現在の不安や懸念が払拭しない限り国会批准は行わない条件が付いており賛同できる。また、持続可能な農業政策の確立はＴＰＰあるなしに関わらず必要と考える。

反対

・以前に同趣旨の意見書は提出済であり、国対応も行われているため。

社会文教委員会

地域福祉センター内に診療所設置

平成28年度飯島町一般会計補正予算（第２号）の分割付託分を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。
また補正予算にかかわる事業の現場調査をしました。

質　疑

健康福祉課

問　福祉センターの診療所設置に関する支出4800万円は妥当だが、医療機器に関してはどのように考えているのか。

答　機械は基本的にリースとする。

今後医師と協議していくが、町の負担が生じることもあると思う。

意　見

診療所にかかわる予算は、8700万円余の多額だ。今後の診療所設置に関しては慎重に進められたい。

開業はありがたいが、他の町内医院との支援バランスも考慮する必要がある。また、高額な費用をかけて短期でやめてしまうことがないよう、契約年数10年間の開業を確約されたい。

また、必要以上に町に負担が及ばないように留意されたい。

地域福祉センター内から見た診療所設置場所

診療所設置予定箇所

請願陳情審査

採　択

国の責任で35人学級を

提出者　横山（よこやま）　眞弓（まゆみ）氏
紹介議員　滝本　登喜子
賛成５　反対０

◆ **内容**

国の責任による35人学級の推進と教育予算の増額を

質　疑

問　1学級の理想の生徒数は何人か。

答　OECD*では20人前後だ。

＊先進34か国が加入する経済協力開発機構

問　県内の状況は。

答　35人学級は可能になっており、円滑な学級運営が行なわれている。

国では小１までしか認められていない状況。

問　2016年度に35人学級実現の予算が編成できなかった理由は。

答　国の財源不足で予算が配分されなかったためと思う。

討　論

賛成　子どもの環境が多様化し、教員の仕事量も増えている。

長野県は手厚いが、全国で実現できるように、声を上げていくことが大事である。

採　択

義務教育費国庫負担堅持

提出者　横山（よこやま）　眞弓（まゆみ）氏
紹介議員　滝本　登喜子
賛成５　反対０

◆ **内容**

国が必要な経費を負担し、教育の機会均等とその水準の維持向上を図ること。

質　疑

問　子どもの貧困の現状は。

答　中学では、費用が捻出できず、部活・修学旅行などを断念している子供もいる。

討　論

賛成　子どもの貧困問題がある。憲法で保障された義務教育を受ける権利がある。

教育委員会

問　山雅現役選手によるサッカー教室がある。対象は町内の子どもたちだけか。

答　町内のＦＣジュニアが対象だが、近隣の子どもも加入している。町外へは呼びかけないが、参加はこばまない。

　参加募集チラシを町内小中学校に配布する。その他は耕地自治会町内回覧のみとする。

誰でも参加

不採択

消費税10％への増税中止を求める。

提出者　　鈴木　正巳 氏

賛成 1　　反対 4

反対

　増税は、福祉医療にあてる趣旨で、10％引き上げは法で決まっている。後世へ負担の先送りをしてはならない。

賛成

　税の公平性からみても弱者の負担が重い。応能負担であるべきで、消費税は誤った税。

　法人税の減税で貧富の格差が大きくなっている。

議会･農業委員会合同研修　6/17

新たな農業委員会制度を学ぶ

　長野県農業会議　中島健貴（なかじま　たけき）氏により「新たな農業委員会制度の課題などについて」合同研修を受けました。

　新制度移行に伴う厳しい日程や課題が浮き彫りになり、大きな制度変革に対する認識を共有しました。

改正法の狙い

　農業委員会が農地の最適化（担い手への利用集積・耕作放棄地の解消・新規参入促進など）の取り組みを強力にすすめるため、組織形態や業務を見直すもの。

選出方法の変更

　公職選挙法に基づく選挙から、市町村長が議会の同意を得て任命。

飯島町はいつから

　29年3月に委員任期となる当町では、29年4月から新体制に移行。（28年度中の対応が必要）

農業委員会の組織

- 農業委員と最適化推進委員で構成
- 定数は現行を確保
- 女性委員は最低２名任命
- 過半は認定農業者を任命
- 利害関係を有しない委員を１名以上任命

今後の課題

- 推進委員と農業委員の業務の違いがわかりにくい。
- 多忙な認定農業者を半数以上確保することが厳しい。
- 年度内に定められた手続きが時間的に厳しい。

（12月定例会には、定数や報酬条例の上程、各種規則既定の制定が必要）

主な質疑

質問　交付金の配分は、成果実績7割となっているが、すでに遊休農地等の解消に努めてきた市町村が、成果を上げ続けることは困難であり不利益にならないか。

中島部長　不透明な部分だ。高い実績を維持していることが評価されるか国に照会する。

迫る制度変革に真剣な受講者

議会改革　議員間討議 5/24

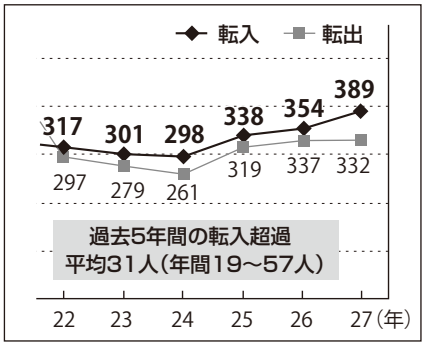
町議会は、議員間討議に取り組み始めました。本会議や委員会のような議決や審査とは別に、議員の自由な討議の場を設けるものです。町の課題を掘り下げ、議会のレベルアップを目指します。

主催は議会運営委員会で第1回目は町の重点プロジェクト「定住促進の現状と今後」をテーマに行いました。

謎のやぎさん

ここまでやっているとは

片桐定住促進室長に現状をお話しいただきました。5年連続転入増で合計約300人増加（関東・関西方面から）。



行列のできる町へ

町の政策説明

＊住宅の新築・リフォーム・空屋・町営賃貸住宅にかかわる様々な補助金
＊PRの方法あれこれ
＊3大首都圏での移住セミナー・イベントへの参加
＊誰が見ても分かりやすい補助制度（住まい系・子育て系）

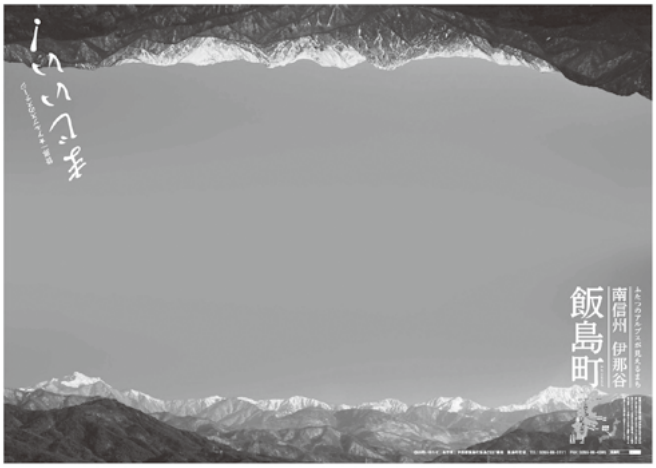
独自の取り組み

＊いいじま大縁会
＊無料職業紹介所
＊田舎暮らしリサーチ住宅
（1～6ヶ月間のおためし）
＊現地de検索
（2ヶ月に1回町内めぐり）
＊道の駅にてキッチンカーでPR（月末の土曜）
＊ポスター・フリーペーパーの作成配布
＊婚活事業とタッグを組み活動（5年間で成婚３）
＊「いいね！」だけでなく「どうなの？」も説明している。
不便なことも積極的に説明する。
町内で、生活に必要な全てを完結する必要は無い。
前住所地での生活との単純比較はやめて。
＊飯島町が有名になったわけはメディアの力が大きい（TV「一から住」・月刊誌「田舎暮らし」など）。

片桐室長の熱意溢れる取り組みの経過と的確な説明に、幅広い事業と成果に驚きの声があがりました。

議員間討議

＊移住希望者は中古住宅を賃借したい。持ち主は売りたい方々が多い。どう解決したものか。
＊下水道につながっていない物件が多い。改修に経費がかかる。
しかし、現状で良いという人もいる。
＊自治会未加入転入者とのトラブル原因を解明する必要がある。
＊自治会・耕地の受け入れ方も一律ではなく、段階を踏んだ加入があっても良いのでは。
＊今回のような定住促進の取り組み内容を地域づくり委員会でも発表し、受け入れ側の住民合意を促すべきだ。



衝撃の構図

森林整備は団地化施業を
議会・林務委員合同研修会

5/27

議会と林務委員会は毎年合同研修会を実施しています。
今回は上伊那森林組合に指導いただき、団地化事業の現状について、現地と机上による研修を行いました。

飯島町は、面積が86.94㎢あり、うち森林が70％を占めています。

ところが、外材の方が丈夫でコストが低いため、杉・ヒノキなど町木材の利用は低迷しています。

そのため個人林も手が行き届かなくなり、山林に対する意識も低下しています。

そこで、長野県は森林税を導入し、森林整備を行っています。上伊那森林組合が行う集約化事業は、複数の個人と団体が所有する山林を団地化して施業を行うものです。

施業は、間伐・除間伐・搬出間伐・作業道開設・枝打ち・下刈・除伐などです。

町では、8つの団地の整備が平成24年度から832ha実施されています。

この事業により、山林所有者に間伐材販売収益の一部を還元することとしていますが、額は僅かのようです。

森林の有する防災機能・水源涵養・景観形成・憩いの場など多面的機能を維持していくことは大切であり、集約化による各種施業は重要です。

しかし所在不明の山林所有者が増えていること、山主の所有権放棄などが今日的課題となっています。

今後林務委員会では、所有権放棄林の町への移転を検討することとなっています。

移転後の管理も課題です。

町内には、個人林・自治会や耕地林・区有林・町有林などがあり、協働にも限界があります。

美しい飯島町の森林環境をどう維持していくのかは、大きな課題です。

集約化事業で整備された森林

搬出など
条件の悪い山林を
町で言うのは問題だ
との声もある。

机上研修

ペーパーレスに挑戦

議会は今年度からタブレット端末を導入し、議案など町から提出される大量の書類を電子化することで、紙の節約と経費の削減を図ります。

全議員で、タブレットによる会議開催の仕組みを構築し、平成29年度から本格実施に移行する計画です。

現在はインターネットで、町の週間行事予定表・議会会議通知・議会全員協議会資料・議会運営委員会資料・メール・町の各種計画など自動配信しています。

当面会議は、ペーパーとタブレットの併用ですが、来年度以降ペーパーレスを目指します。

使いこなそうタブレット

第3回
臨時会
補正1号

60周年プレイベントに315万円

5/16

新年度予算がスタートし、１月半で早くも新町長肝いり事業他の補正予算が上程されました。

所管委員会に付託され即日審議の結果、本会議において全員一致で可決されました。

補正予算の審議の過程では60周年プレイベントのあり方が議論になりました。『住民周知が不足しており、拙速では無いか』『営業部の活動が見えないが』と心配する声がありました。

これに対して『町を一つに、儲かる町にチャレンジする。大博覧会をつうじて儲かる資源を営業部が発掘する予算だ』という町長の熱い思いを議会が受けとめた形になりました。

また、議会委員会条例の一部改正が議員発議で上程され、全員一致で可決されました。

補正予算

平成28年度
一般会計補正予算（1号）
補正額861万円
総額47億8861万円に

主な補正財源

地方交付税	266万円
財政調整基金繰入金	594万円

主な使い道

新町発足60周年記念プレイベント	315万円
儲かる飯島町チャレンジ事業	282万円
営業部交付金	209万円

条例改正

議会委員会条例一部改正

住民税務課関係の議会常任委員会所管区分の変更をしました。

住民税務課は、生活環境係や住民係・税務係・収納対策室など、住民生活に直結した事務分掌が多く、社会文教委員会が所管することが適切と決定されました。

若い力で支えるプレイベント

一般会計補正経過

平成27年度予算 → 定例会　6/9　補正10号（最終）　補正額 7713万円　総額 50億9341万円（事業確定による）　予備費1億8815万円 → 9月議会で決算確定

平成28年度予算 → 定例会　3/15（当初予算）　総額 47億8000万円（3つのチャレンジ） → 臨時会　5/16　補正1号　補正額 861万円　総額 47億8861万円（60周年プレイベント） → 定例会　6/17　補正2号　補正額 1億969万円　総額 48億9830万円（診療所設置など） →

飯島町営業部

組織は適切か

見直しをする　町長

久保島　巖

問　3月25日付けで施行された「飯島町営業部設置規則」の説明が6月2日に遅れたことは問題だ。議会軽視に当たる。その経緯は。

町長　説明が遅れたことは反省する。早くのろしを上げたかった。

問　本部長が町長だと地方自治法の規定の「兼職の禁止」に抵触しないか。交付金を受けることができなくなるが。

副町長　将来的には法人化を考えている。ご指摘の町長兼職は、法人化に向けて整理していく。

問　「飯島町営業部」に職員を配置することには違和感があるが。職員配置のために設置規則を急ごしらえしたのではないか。

町長　各課の事情に精通した人が必要と考えた。従来の機構の中に入れなかったのは、新しい組織で新しいものを作り出すことに期待したからだ。

問　新町発足60周年事業が飯島町営業部に移ったのはなぜか。

町長　計画全体は総務課で1年かけて実施していく。そのうち外のイベントを営業部が担当する。テント村の出店募集は営業部が適していた。

60周年の船がでるぞというプレイベントにしたかった。

60周年はお祭り騒ぎで良いか

問　プレイベントが急きょ決まった感がある。実行委員会を組織して取り組む計画ではなかったか。

町長　10月29・30日の本番に向けてのサンプルを示したかった。町民の多くが参加するには早めに60周年の周知が必要と考えた。

問　60周年に1000万円使うことになるが、その概略は。またイベント会社に委託は適正に行われるか。

町長　プレイベントは60団体83張のテントの盛大なものになる。大人だけのイベントではなく、こどもの歓声が響き渡るようなイベントを考えた。

こどもたちの心に残るようなものにしたくて、イベント会社に大道芸人の企画を依頼した。

問　この60周年を単なるお祭り騒ぎでなく、反省と課題の洗い出しの機会とすべきだ。

そのため、町民参加の意見発表・作文・絵画・パネルディスカッションを行うべきだ。

少なくともイベント会社に委託するようなものではなく、町民手作りのものを目指す必要があるがどうか。

町長　イベントは一過性になる傾向がある。この60周年事業が始めの一歩になることを期待する。

町民の心が1つになるものを考えている。10月の本イベントはその種まきと捉えている。

4地区に共通のテーマが必要だ。飯島町は名の通り米の町・瑞穂の町で、米文化が基になる。

水の争いがあったように、水は大事なもので、雨乞い祭りもあった。そこで、風神・雷神・水神をキーワードにすれば町民の誰もが共感できる。

プレイベントを除き町民参加の手作りイベントを目指したい。

〔以上２件質問〕

瑞穂の国イベントに

本多　昇

ICT利活用

町を先進地に
セールスポイントに

町長

こんな所にもサテライトオフィスが?

問　町は観光産業の充実を図り、観光客に魅力を満喫してもらう。その先には定住者による人口の増加が見込まれる。

　また企業誘致を強化し、産業振興による町財政の収益力向上を目指している。

　例えば「観光客の集客」と「企業誘致」で、ターゲットをＩＴ企業に絞ると、実現性の高い共通戦略が見える。

　通信ネットワーク技術の進歩と普及により、光ファイバー網・Ｗｉ－Ｆｉフリースポットの充実が可能となった。

　町内をIT先進地にすれば、自然環境の魅力を生かし空き家などを活用し、IT企業の本社機能を有する「サテライトオフィス」を誘致することができる。

　県の補助を活用して先取りした取り組みが必要だが。

町長　観光産業の充実や企業誘致の強化にＩＣＴの活用は有意義なものだ。補助事業による取り組みを進められれば、財源的に有利で効果も期待できる。

　現在、ＣＥＫにより光ファイバー網が整備されている。企業誘致を行う上でもセールスポイントになる。観光産業の充実でも重要性は充分に感じている。

儲かる飯島町チャレンジ事業
（事業コード1165）

問　現在の予算は1141万円、うち1125万円が飯島町営業部関係だ。交付金で委託している。（事業コード1165）は飯島町営業部運営の予算措置か。

町長　営業部運営の予算措置だ。

独立採算制の町営業部を

問　営業部はプロジェクトを立ち上げる役割で、町民や民間企業と一体となって事業展開を行う。

　独立採算制で運営すべきだが。

町長　営業部は今後、プロジェクトを立ち上げて具体的な事業を進めていきたい。今はその段階ではない。事業が進めば、将来的には一般社団法人にしたい。

問　営業部は、まじいい元気道場・60周年記念事業などイベントばかり計画実施している。

　本来の目的に向かっているか。

町長　本来の目的に向かって進んでいるつもりである。

無駄の多い記念事業

問　当初予算は式典費用249万円。突然大博覧会が計画され751万円の追加予算となり1000万円となった。

　税金の無駄遣いと考えるが、住民の理解を得られるのか。

町長　1000万円は大きなお金だ。大切に使っていかなくてはならない。効果の上がる事業を考える。

　住民も十人十色、賛成も反対もある。それぞれの意見を加味して無駄のないように使う。

〔以上４件質問〕

防　災

取り組みに女性視点を

災害時の役割を検討　町長

橋場 みどり

問　避難場所では、女性の安全が守られにくいことがあまり知られていない。普段にも増し女性が声を上げられない環境と聞いた。

より一層相談しやすい配慮と男女のリーダーが必要だ。『犯罪は許さない』と言う強い男性や話しやすい女性の存在は必要。

防災計画の中で女性の活躍をどのように考えているか。

町長　町の地域防災計画の中では、女性に特化した具体的な役割の位置づけはしていない。

避難所は、男性中心に運営される傾向が強い。女性の視点を取り入れた配慮が必要で、女性活躍の場が重要になる。

町防災会議の委員にメンバーとして参加してもらい、助言・提案を期待する。各地区の防災会において災害時の役割検討が必要だ。

問　要支援者の避難には地域力がより必要。防災訓練に高齢者・子供・女性が参加しやすい「避難所訓練ゲームHUG(ハグ)*」の実施はどうか。

＊H…避難所　U…運営　G…ゲーム

総務課長　田切自主防災会が行った。多くの自治防災会で行う事が重要で進めたい。

高齢者向けには短時間で体に負担がかからない講座・訓練で知識を身に着け、防災意識を高める。小さい子供を持つ女性には、来年開所予定の子育て支援センターの福祉避難所機能を活用し、ゲーム感覚で学べる講座を考えている。

常に最悪の有事を想定し、様々な年代層の人が参加しやすい工夫をしたい。

HUG 訓練

問　住民意識の向上・地域力を高めていくには、男女ともに防災士の養成が必要だ。資格取得を助成しては。

総務課長　地域防災力強化に向け一部補助をし、資格取得後は防災リーダーとして地域で活躍してもらいたい。

「まじいい元気道場」を問う

問　「まじいい元気道場」とは何か。誰の考えで始まり長は誰か。

町長　町を元気にしようという思いで始めた。町づくりの感覚を皆が共有しようという思いの勉強会だ。住民とのコンセンサスを得るには時間がかかる。

営業部の企画として行っている。一人のコンサルタントがどこの場所でも統一した話をする中で、まちづくりの感覚を共有していく。

「子供食堂」の取り組みは

問　今や6人に1人と言われる子供の貧困。今年箕輪町のあるグループが「子供食堂」の活動を実施する。

町ではこのような取り組みや支援の考えはあるか。

健康福祉課長　県内では、長野・松本で広がってきていると認識している。良い趣旨なので町も検討を始めた。

貧困やひとり親家庭などの事情に応じて、子供たちを健やかに育てることは必要。

今後実態も踏まえ先進地の意見を聞き、保育園・学校とも連携し検討していく。

〔以上３件質問〕

浜田　稔

地元材の住宅

実現の見込みは

都会より格安感で

町長

問　町長が掲げる「地元材での格安住宅」は実現可能か。

町長　近隣では若年層を対象としたキットハウスで、生活スタイルに応じて内部を充実させるなどの試みもある。

　地元材は加工を含め安くないかも知れないが、資源は豊富なので建築業者の工夫を望む。

　土地代も含めて都会から見た割安感を目指している。

問　関係者の意見を聞くと悲観的だ。現在の国産材は、価格だけでなく強度や品質でも外材に劣るという。

　この不利な条件を乗り越える構想はあるか。

産業振興課長　国・県の補助制度は不十分かも知れないが、地産地消の流通など工夫の余地はあると思う。

町長　地元材の需要が広がれば地域の林業再生や雇用拡大につながると思う。新築住宅に丸太数十本の村内木材を提供する根羽村の取り組みは興味深い。

根羽杉の木の家（根羽村森林組合HPより）

問　日本は世界でも高い森林率でありながら、自給率20%という異常な国だ。森林県だからこそ林業政策の見直しを求めるべきでは。

町長　長野での植樹祭に参加し、森林の大切さを強く認識した。山も里も海も、大自然の大きな循環で成り立っている。

　日本は工業優先で経済成長し森林資源が活用されずに眠っている。

　国の政策を変えることまで考えてはいないが、地元材の格安住宅政策が、森林と親しむ文化として広がることを願っている。

教育格差の現状と対策は

問　昨年度、準要保護*家庭の急増で補正予算が組まれた。町内でも経済格差が教育に及んでいることに衝撃を受けたが、新年度に入っての現状は。

*準要保護：生活保護に近い経済状態の家庭の児童生徒

教育長　今年度の該当見込みは80人11.1%で、H22年の4.2%、H23年の7.0%と比較すると、経済的に苦しい家庭が増えている。

　全国と比べて少ないわけではない。

問　「引きこもり」への対応は。

教育長　不登校からつながるので町では、ケース会議で対応している。県では「引きこもり支援センター」の設置や「スクールソーシャルワーカ」の増強を行っている。

健康福祉課長　18歳以上は健康福祉課が担当する。民生児童委員には、対応の仕方を会議の中で再確認する予定である。

問　理工系偏重や全国学力テストへの教育長の認識は。

教育長　国が学問領域の拡大・縮小に言及することには共感できない。

　学力テストは学力調査であっても教育力全体を測るものではないので、慎重に扱うべきだ。

〔以上２件質問〕

グループ育成と支援

今年度での取り組みは

人材発掘と育成に努める　町長

滝本 登喜子

問　グループ育成を目的に「いいじま火曜学校」が開催されたが、女性グループの育成はできたか。また農産物加工施設の充実を。

町長　町の特産品を生かした商品を売り出すために、地域の中に埋もれている人材を発掘し、育成に努める。

産業振興課長　現加工施設の整備は総合的に検討する。

問　子育て勉強会の予定は。

教育長　9・11・3月に予定している。この開催により、人材の育成と地域全体で子育てが大切であるという意識を高めたい。

　企業にも呼びかけ、対象者に合わせた内容を盛り込み、次のステップにつなげたい。

問　観光メニューはできたか。

町長　人を呼び込むまちづくりのためには、観光事業は欠かせない取り組みで、オンリーワンを持つことが必要。飯島は自然の山・谷を活かし「アウトドアスポーツ」のメッカとなり得ると提案ももらった。観光デザインの中で検討する。

「まち・ひと・しごと創生」

問　アルプスを眺望できるビューポイントとはどの場所か。

産業振興課長　ビューポイントは、町民が気に入った場所や自慢できる場所など幾つもある。町としての制定はしていない。

　町民から募集するのも一案だと考える。その一つに、日曽利の「いなかの風」もあるので、タイアップして進めたい。

問　資源を生かしたイベントへの支援とはどのようなものか。「米俵マラソン」は今年度で県の支援金が終わりとなるので協力・支援を続けてもらいたい。

産業振興課長　資源を生かした新たなイベントに、人的・金銭的な支援など協議しながらニーズに合った支援を行ないたい。

問　来訪者に「おもてなしの心」で接するための取り組みは。

町長「おもてなし」とは、それぞれのご家庭で、お客様を迎える気遣い・心遣いと考える。

　対応する人の人間力が基本だ。この人間力向上のために、田切の里・七久保花の里と合同研修会を実施する。

問　「飯島ブランド」とは何か。

町長　名前を付け他と差別化し、多くの人に知ってもらい、買ってもらい「飯島」ファンを増やすことだ。

問　ボランティア団体の人材確保は。

健康福祉課長　社協開催のクラブ・講座に集まった人に、ボランティアに入るよう勧めている。

問　高齢者の能力・知恵などを地域で活かす取り組みとは。

健康福祉課長　場所と人、人と人をつなげる取り組みにより、高齢者自身も役割をもってサービスする側に携わり、社会参加ができるようにしたい。

　生活支援コーディネータが情報収集を行ない、組織づくりなどをサポートする。

〔以上２件質問〕

日曽利より町を望む

坂本 紀子

食の安全

環境共生栽培の取り組みは

地消地産で推進する　町長

問　「環境共生」は有機資材を活用し「化学肥料・農薬」の使用を50%以上削減するとある。

当町の米・麦・大豆・そば・栗の栽培基準は。

産業振興課長　JA上伊那の栽培基準は県の化学肥料・農薬の基準より厳しい。しかし、50%削減には届いていない。

問　殺虫剤は戦後日本に入ってきた。現在国内の1/4が有機リン系であり、低用量でも子供の発達障害を引き起こすと米国の研究にある。

1990年代にネオニコチノイド系(略ネオニコ)の農薬が現れ、農業・林業・家庭用殺虫剤などで多用されている。

植物の根や茎から入り、洗っても落ちず残留性が高く、環境に蓄積する。また哺乳類の脳に蓄積し排泄しにくい。

人体被害や蜜蜂(指標生物*)の大量死などを招いている認識はあるか。

*環境が悪化した時にそれを知らせる生物

産業振興課長　国は平成25年から3年間にわたり調査中で、平成25年に69件の被害報告があった。

死んだ蜜蜂から複数の殺虫剤が検出されたが、ネオニコ系とは特定されなかった。人体被害は当町では把握してない。

問　有機リン系やネオニコ系の農薬を減らし、フェロモン剤や脱皮抑制剤などに替えるようJAと取り組んでほしいが。

現在、与田切公園・坊主平での松枯れ防除は、ネオニコ系なので止めてほしい。

産業振興課長　農薬の使用回数を減らし、代替え技術の導入も考えるようJA・農業改良普及センターと検討したい。

今年の防除はすでに実施しており、今後研究したい。

問　「環境共生栽培」は、まだ生産者に浸透しているとは思えない。生産者の実力に合わせた勉強会を開催してほしいが。

産業振興課長　今年度から積極的に「環境共生米」を約40ha担い手法人を中心に作付けている。町内の消費者・学校給食の利用を広げる。野菜作りの教室は既に開催しているが、さらに多くの人に参加してほしい。

問　Ｉターン・Uターン・若手農業者・新規就農者への支援の取り組みは。

産業振興課長　就農希望者には研修施設を紹介したり、農地の借り入れを支援したりしている。

45歳以下の人は国の青年就農給付金、それ以外の人は就農支援金10万円などがあり、相談に乗っている。

問　小型農機具や中古農機具でも、買うとなると大変である。

パイプハウスにも補助金を。

また新規就農者達と課題を話し合ってはどうか。

産業振興課長　パイプハウスは昨年から1/2の設置補助がある。どんなニーズがあるか相談の機会を設けたい。

問　環境共生栽培農場1000haはいつ実現するのか。もっと積極的に動いてほしい。

学校給食の自給率を上げ、地元の消費が農業を引っ張る地消地産にも力を入れてほしい。

町長　消費者として一番頼りになるのは地元の人達で、地消地産が強みか。

畜産も強化し、地元消費があれば多種多様な農産物も生産できる。

皆で考えながら安全安心な農産物を追求したい。

〔以上１件質問〕

土地開発公社 解散すべきでは

公社理事会で検討 町長

折山 誠

問 土地開発公社は、町が債務を100%保証する団体だ。

前年度決算では、町補助金を除くと900万円の赤字だ。

短期の負債と資産からは、6600万円の債務超過であり、資産には長期間売却できない保有土地も含まれており、厳しい経営環境が推察される。

最近の財政支援実績と今後の見通しは。

町長 引き続き経営状況に応じて必要な財政支援を行っていく。

企画政策課長 直近では、平成25・27年度にそれぞれ3000万円の補助をした。今後債務超過分は、その年の財政状況を見ながら町が補助していく。

問 公社では、数億円の土地を購入するのに、議会の審議を経ず、町民の知らないところで決められる。議会の審議を求められる時は、多額の赤字が生じ、税金を投入して補助する時だ。

風通しの極めて悪い団体だ。

土地価格が日々上昇し、公有地を取得するために、議会の審議を経ていたら大きく値上がりした時代は終わり、公社の果たす役割は終結した。

今後は、必要に応じて議会審議を尽くし、町民に見える場所で予算計上するべきだ。

そこで公社解散に向けた外部有識者会議の設置を提案するが。

町長 必要として設置してきた公社だが、国の指導により、解散も含め、あり方を常に継続して検討することとしている。今後理事会で検討する。

金利のかさむ未売却工場用地

町営業部による町民益増進を

問 町営業部に、常駐できない町長が本部長として統括することは、営業部職員の自由度を制約し、部機能が低下しないか。

営業部は、派手なイベント企画を担うより、一つでも良いから地道な儲かる事業を積み重ねるべきでは。

営業部の本年度成果目標は何か。

町長 60周年イベントで、地域資源を発掘し、商品開発することが本年度営業部に求める成果だと考えている。私が本部長に就任したのは、町長自らトップセールスに当たるという決意だ。

桜の女王制度の創設と活用を

問 各国桜の女王や政界要人などが出席して開催される桜中央大会に、大鹿村からは村桜の女王が参加し、世界にＰＲしている。

桜の名所を標榜する当町でも、全町の一体感を醸成し、世界に向けて桜の町を発信することが必要だ。

そこで、60周年記念事業としての制度化と活用を提案するが。

町長 アルプスのお花畑構想もあり、桜にこだわらず花の町を売り出していく。提案の制度は現在考えていない。

〔以上３件質問〕

竹沢 秀幸

慈福院枝垂桜

天然記念物に 指定に向け検討

教育長

問　日本さくらの会主催の「第51回さくらまつり中央大会」で七久保小が表彰を受けた。

　慈福院のシダレザクラは推定樹齢400年で枯れる恐れがあった。

　樹木医と七久保小児童が手入れをした結果、樹勢を回復し、毎年美しい桜が咲いている。樹木医は今後100年枯れないと判断している。

　そこで、町の宝として天然記念物の指定を求める。

教育長　子ども達が「桜功労賞」を受賞したことは名誉であり、素晴らしい活動である。

　地域のシンボル的存在であり飯島町の宝でもある。

　ただし、古木の天然記念物指定には慎重な判断が必要。専門家により学術価値を確かめ、地域による維持管理を関係者と協議し、指定に向けて検討する。

咲き誇る慈福院のシダレザクラ

おたふくかぜワクチンに助成を

問　町子育て支援として、幼児ワクチンの公費補助の要望がある。おたふくかぜワクチンの補助を提案する。

町長　3月に町内医師会から幼児ワクチン公費補助の要望書をもらった。

健康福祉課長　ましん・風しん・おたふくかぜは過去３種混合ワクチンで接種したが、副作用により平成4年中止となった。

公費助成でおたふくかぜ予防を

　おたふくかぜの情報を集め、来年度の接種に向けて検討する。

問　町PRのため医療タイムスなどへ情報提供を行ったらどうか。

健康福祉課長　メディアを使って町をPRするため情報発信したい。

防災士の配置で安心を

問　消防団員削減は何人・いつから実施するのか。

総務課長　現行定数の300人を250～260人とする方向で消防団幹部会の検討・消防委員会に諮問・議会審議を経て平成29年度から実施する。

問　消防団員の削減により、防災士の配置が必要。

　消防団ＯＢなどに資格取得を促し、費用の補助を行い、全自治組織への配置を3カ年で実施したらどうか。

町長　有効である。

総務課長　自主防災組織に複数の防災士配置が必要。平成29年度より予算化し補助したい。

〔以上３件質問〕

飯島町
営業部

行政内部で
法人化を目指す　町長

堀内 克美

問　営業部事業は規則によると「関係機関が一体となって儲かる飯島町をつくり出していく」ということで良いか。
町長　その通り。地域資源の掘り起こしと、それぞれの事業のマネジメントで町の活性化を図る。

問　町長直属の組織として、総合的調整を図るべきと考えるが。
町長　企画政策課に位置づけて対応する。

問　営業部規則の議会への提示時期に疑問を抱くが。規則は6月2日の議会に示された。設置時期と違和感があるが、法規審査委員会の日程は。
総務課長　3月24日に、健康福祉課長が代理として開催した。

問　手元の行事予定資料ではその日に会議の予定はないが。
健康福祉課長　開催し、規則の審査を行った。

問　答弁があいまいに聞こえる。取り扱いを議長に一任する。
（後日審議資料が提示され、実施が確認された。）

問　町の特徴的な事例を紹介し、営業部の行政組織内での実施を求める。
　林務委員会は付属機関として町民から委員を任命し、町有林の監視体制を整備した。
　営農センターは付属機関として、農業生産基盤整備や農業者の兼業化や高齢者対策に取り組んだ。町の農業農村整備計画「地域複合営農」の推進を図り、全国のモデル的な集落農業を推進した。
　これらを参考に、行政組織の中で営業部活動を。
副町長　営農センターを参考にした付属機関として、規則の整備を行った。将来は法人化を考えているが、過去の町の優良事例も参考に検討を進めたい。

町の企業振興

問　現在の町内企業の経営状況は。
町長　50％が設備投資を検討しているが更新が大半である。雇用も前向きなところがあるが「良い・変わらず」が大半を占めている。

問　大規模な設備投資を検討している企業があると聞くが。
町長　地元企業に寄り添い、良い結果を報告したい。

問　町内企業で大規模な用地確保を検討していると聞くが、企業名と進捗状況は。
産業振興課長　企業名は言える段階ではない。工場の拡張で用地の相談に乗っている。

問　工業振興は、雇用確保・人口増加対策・町の財政対策の重要な課題として積極的な対応を。
町長　地元企業の頑張りに寄り添っていく。関係者と深くかかわって対応し、将来良い結果を報告したい。

〔以上２件質問〕

元気なまちを こどもたちに!

三浦 寿美子

産廃投棄

対応が遅くないか

早急な撤去を求める　町長

問　豊岡地籍の民家と通学道路上の竹藪に、大量の瓦礫が廃棄されており、災害の危険がある。

町は、いつ知ったか。

町長　4月26日に飯島区から要請文書を受け取り知った。その時点で関係部署と情報共有した。

問　どのように対応したか。

住民税務課長　町は5月6日に現場を確認し、産廃と判断した。

5月11日に地方事務所と町環境係が現場を立ち合い、その後地方事務所が私有地管理者と行為者から聞き取りを行った。

5月19日には、県資源循環推進課が現場を確認し、産業廃棄物と判断した。

問　2014年2月7日に「認定飯島町役場」及び連絡先が書かれた立て札と、大量の土砂が竹藪に捨てられているのを私が発見した。

問い合わせたら、町が認定した事実はなかった。連絡先に住民税務課長が電話をした。

当時、車１台分の道だったが、投棄により今は大型トラックが何台も止まれる。すべて瓦礫だ。危機感がなさすぎる。

もっと早い対応をすべきでは。

町長　現場の確認を再三行う。通学路と民家が隣接しているので、早急に対応する。

住民税務課長　地方事務所と協議しながら対応する。行為者には産廃の早急な撤去を、管理者には防護柵などを設置し、安全対策をするよう求めていく。

教育長　学校では子どもたちが危険な場所に入らないよう指導。

危険と判断した時は、教職員と集団下校、スクールバスの利用も考えている。

崩れそうな産廃が

下には通学路

介護新制度移行の準備は

問　来年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」が本格実施となるが、準備状況は。

健康福祉課長　今年も昭和病院と連携し、歩くことを重視した「歩く歩く塾」を開催。

また、自宅訪問で機能訓練を提供する「元気宅配いいじま」と拠点で開く機能重視の「健幸教室」を事業委託している。

来年度から「地域で暮らす」がメインになる。社会参加を継続できるよう事業を展開しなければならない。秋ごろに、試行事業の検証を行い、来年度に向けて準備をしたい。

問　先行市町村の取り組みが参考になるのでは。

健康福祉課長　他市町村も始めたばかり。伊南の連絡会で意見交換と現状把握をしたい。

日常生活が困難になった人を把握し、支えていく仕組みが必要である。飯島にあった仕組みをつくりたい。

問　介護保険を利用していない家庭にオムツ代などを支援する制度はあるか。

健康福祉課長　制度は無い。生活支援総合事業で対応できるか今後検討していく。

〔以上２件質問〕

食品ロス 削減を
食育推進計画で取り組む　町長

中村 明美

問　日本は年間約642万トンの食品ロスが発生している。

その半分は家庭からの廃棄で、国民一人当たり、ごはん茶わん160杯分の食べ物を捨てていることになる。

これは国際的にも大きな問題で、なんと農業生産から消費に至る過程で、世界の生産量の3分の1が毎年廃棄されていると「国連食糧農業機関」が発表した。

町内のある飲食店で状況を聞くと、宴会の食べ残しが多いとのこと。

駒ヶ根市では、宴会開始の20分と最後の10分は席を立たず食事を楽しむ時間と決め「20（ニーマル）・10（イチマル）運動」を行っている。

当町でも食品の購入・食材活用・食品管理・外食時の注文の仕方に心を配り、命に感謝し食べきるべきだ。

また、食育の観点から「もったいない精神」で食品ロス削減への取り組みを行うべきだが。

町長　国・県などで取り組みが始まっていることは認識している。町も何らかの対応が必要と考えている。

健康福祉課長　国は一昨年まで実態が把握できていなかった。

食品ロスの結果を受け、農水省・環境省・消費者庁・文科省などが削減に取り組みはじめた。

県は平成22年度から「食べ残しを減らそう県民運動」プロジェクトを推進。

町では、賞味期限などを正しく理解して、適正な買い物するなどの教育が必要と考えている。

今年は食育計画策定の年であり、子どもたちに向けてもその中で取り組んでいきたい。

食品ロスを減らすために

「祖父母手帳」を

問　祖父母の子育てした時代に比べ、育児方法が大きく変化している。

さいたま市では、祖父母が今の育児を学び、父母との関係を円滑にするための冊子を発行している。それは「地域における子育て」の担い手を育てるきっかけともなる。

町民からも当町での発行を望む声がある。地域ぐるみで子育てを進めている当町でも、祖父母手帳飯島版の作成を考えては。

教育長　子育て支援講演会の内容や祖父母世代からも聞き、また既成の冊子もあるので、それらを参考に配布方法も含め検討していきたい。

他に

- 飯島発足60周年の佳節にあたり、全町民が先人への感謝・未来に向かって希望の一歩を仲良く踏み出す年に。
- 飯島発足60周年の記念誌は希望者配布とし、記念品に防災危機意識を高めるために、一戸1台の防災用ヘッドライト配布を。

〔以上4件質問〕

町民の声を議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力をお願いし、町政や議会への意見や感想を掲載しています。

今回は七久保煙友会代表の大嶋学（おおしま まなぶ）さんに登場していただきます。

七久保煙友会

昭和56年、七久保三社合同祭花火の支援を目的に、5人の有志で結成された「祭典青年有志の会」が煙友会の始まりです。

その後花火を通じ『もっと地域の方々が楽しめる祭事に携わっていきたい』と昭和59年「七久保煙友会」に改名し活動を続けてきました。

苦悩！大晦日新春花火

昭和61年「会独自の行事」を残したいという強い願望から第1回「大晦日新春花火」を計画。

“不景気風を吹き飛ばせ”をキャッチフレーズに、27名の協賛者と共に尺玉8発が正月の夜空を照らしました。

しかし…現実は厳しく「非常識」との強烈批判の集中砲火に叩かれ、悩み、自信も目的も失いかけ苦悩のスタートとなりました。

故郷の想い出として

そんな厳しい環境の中、続けることができたのは、期待しているぞ！と当初からの「協賛者」「地元の支援」「アルプス煙火」さん、そして何よりお互いが励まし合い、苦楽を共にしてきた会員の存在があってこそ、と感謝の気持ちは絶えません。

私たちは「故郷の自慢、心に残る想い出づくり」を煙友会の目指す姿としました。

第１回目の昭和61年に誕生した子が家庭を築き「お父さんお母さんが生まれた時に始まった花火だよ」と子供につなぐ具体的な情景を夢見て、多くの支援に応えるためにも必ず実現しよう！と必死に続けてきました。

21回大晦日新春花火3尺玉

30回、地域への恩返し

平成29年元旦ついに大晦日新春花火は「30回」を迎えます。

記念大会に向け、長年様々な立場で支援いただいた方々に感謝の意を示すため、これまでにない素晴らしい花火を打ち上げることだと認識。会員全員で思案する中、のどかクリニック様から「のどか賞」という大きな協力を得られました。

想い出残る記念大会を目指し準備してまいります。ご期待ください。

町や議会に望むこと

地域が活気にあふれ、互いを尊重し、年齢性別に関係なく充実した生活があってこそ、祭事を待ちわび、携わり、楽しめる「心の余裕」が生まれます。

そのような飯島町を目指すには、働く場と生活の場の充実に加え、余暇を満喫できる環境の充実も望まれます。

私たちのような団体がもっと活躍できる、バランスの良い魅力ある飯島町をつくり上げることを願います。

議会だより クイズ

問題 今年は飯島町発足〇〇周年

ヒントはあちこち

正解者５名様にいいちゃん商品券進呈

（締切は8/31、発表は発送をもって代えさせていただきます）

応募要領 住所・氏名・年齢・解答とご意見などをご記入のうえ**ハガキ・FAX・いいちゃんポスト**で、**飯島町議会事務局　議会だよりクイズ係宛**まで

編集後記

今回から目次ダイジェストを載せました。ご意見をお寄せください。

発行責任者　議長　松下寿雄
編集委員　◎浜田　〇橋場
本多・滝本・折山・竹沢

いいじままち議会だより　第74号　発行・飯島町議会　〒399－3797 長野県上伊那郡飯島町飯島2537番地　編集・議会広報委員会　印刷・㈱宮澤印刷

あなたの声を議会だよりに ☎0265(86)3111 内線230 FAX.86-4395 e-mail gikai@town.iijima.lg.jp